

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野八幡小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	「児童の主体的に学習に取り組む力の育成」 「自ら学びを広げ、深めることができる児童の育成」 【目指す児童像】 ・自分の学習の理解度を判断し、自分にあった学習の仕方を選択して学ぶ児童 ・学習したことを基に、新たな課題を見出し、調べたり試したりする児童 ・様々な人と協力しながら、問題を解決したり考えを共有・表現したりして学ぶ児童
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	・1人1台端末を活用し、児童の振り返り等を基に「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」、学びのポイント「じ・しゃ・く」を意識した児童主体の授業を実践し、成果と課題を共有する。【学期に1回】 ・スクールカウンセラー等を活用し学びの振り返りを実施したり、ルーブリック評価を活用し、児童が学習のめあてを自己決定して、主体的に学習に取り組む機会を設定したりする【単元ごと】 ・ねらいを明確にした協働的な学びの場面を設定し、仲間と考えを交流する中で学びをさらに深めることができるようにする。【単元ごと】 ・自分の考えや学んだ成果を、相手に伝えるように状況に応じて適切な方法を選択して、児童が表現する機会を設定する。【単元ごと】

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 結果提供(2月)
↓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語では、長文で記述して解答する2つの問題で、一方は本校の結果の中で正答率が最も高く、もう一方は最も低い結果となった。ともに自分の考えを書くことはできていたが、「本の題名や本文の一部の内容を引用して書く」条件が求められた問題では正答率が低く、課題が見られた。 ・算数では、「学習指導要領の5領域」及び「知識・技能」、「思考・判断・表現」のいずれの正答率も全国の平均正答率を上回る結果となった。解答形式別に見ると、記述式の問題の正答率が特に低く、課題が見られた。 ・児童質問調査では、教科等における技能や学び方の習得を問う質問について、肯定的な回答の割合が全国平均を大きく上回るものがあった。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	・教科等の学習において、身に付けるべき技能や学び方を意識して学習できている児童が多い。 ・自分の考えを表現することについても前向きに取り組める児童が多い。 ・国語では、相手にわかりやすいように構成に注意したり情報を引用したりするなどして、表現の仕方を工夫することには課題がある。 ・算数では、考えやわけを説明する場面などで、必要な言葉や数などが何かを判断し、それらを適切に用いて表現することには課題がある。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経た取組 ④調査結果を活用した授業

③	調査結果分析		中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※)	・「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」、学びのポイント「じ・しゃ・く」を意識した児童主体の授業実践、及び成果と課題の共有について、1学期の実施率は6割程度であった。2学期以降も、研修の取組として計画的な実施を予定している。	
	B	・教職員へのアンケートの結果、「学びの振り返りの実施」、「主体的に学習に取り組む機会の設定」、「協働的な学びの場面の設定」、「児童が考えや学んだ成果を表現する機会の設定」について、「(単元ごとに)実施している・概ね実施している」の回答がいずれも6割以上であった。	
↓			
学力向上策の 見直し	変更なし		
中間評価(9月)			

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

教育研究所